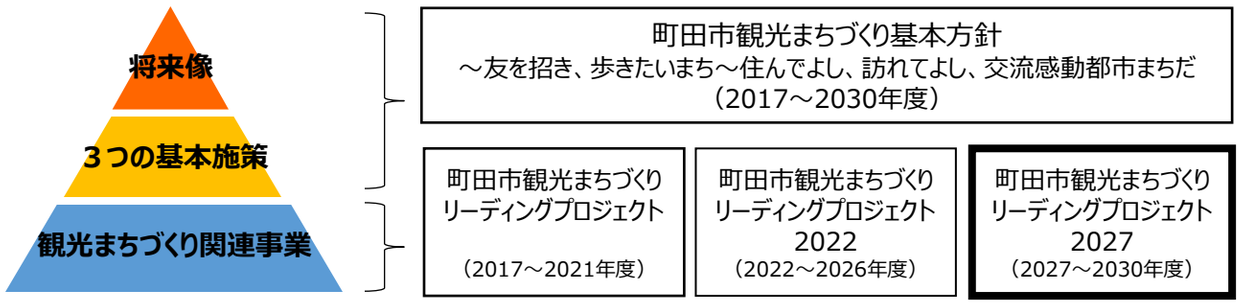
「町田市観光まちづくりリーディングプロジェクト2027」の骨子案

資料3

Ⅰ．基本方針とリーディングプロジェクト

- 観光を切り口に来訪者と地域住民の交流を拡大し、さらに観光による消費拡大で経済活性化を図ることでまちの活力の維持・向上を目指すため、『町田市観光まちづくり基本方針』を2017年5月に策定しました。
- 基本方針では、市民と行政が協働で「観光振興」と「まちづくり」を一体的に進めるための将来像と3つの基本施策を定めました。
- 基本方針に基づく観光まちづくり関連事業を戦略的に推進するため、2017年12月に『町田市観光まちづくりリーディングプロジェクト』を、2022年3月に「町田市観光まちづくりリーディングプロジェクト2022～ウィズコロナ戦略～」をそれぞれまとめました。
- 本計画は、現在の観光を取り巻く状況を踏まえながら、新たに2027年度から2030年度までに行う取り組みをまとめたものです。



Ⅱ．リーディングプロジェクト2022の成果

1　これまでの主な取り組み

基本施策1
町田ならではの地域素材の洗い出し・磨き上げ

・町田薬師池公園四季彩の杜のブランディングによる魅力向上及び賑わい創出のためイベント実施
・花とみどりの魅力を活かしたイベント（さくらまつりなど）の開催
・フットパスの振興

基本施策２
観光まちづくりの担い手と態勢づくり

・観光案内人による市内ツアーの実施
・地域や市民団体等との連携・活動支援
・おくまち（里山など中心市街地から離れた町田の自然豊かなエリア）の紹介

基本施策３
地域素材が持つ魅力の伝達と交流の拡大

・アニメ作品等を活用したデジタルスタンプラリーの実施
・Webリリースを活用した情報発信
・ショート動画やSNSによるプロモーション
・TV番組等のロケ支援

2　成果指標

指標	策定時（2021）	目標（2026）	実績（2026）	達成状況
観光入込客数	5,735,010人	6,000,000人	6,148,142人※	達成
リピーター率	80.0%	86.7%	82.2%	未達成

※2024年実績

●参考数値
- のべ宿泊者数　（2021）236,549人　➡（2025）506,463人
- 観光消費額　（2021）　5,452円　➡（2026）　11,353円（Web調査）
- 観光満足度　（2021）　59.3%　➡（2026）　45.3%（Web調査）

Ⅲ．観光まちづくりの現状

1　コロナ禍を経た観光まちづくりをとりまく状況の変化

（１）訪日外客数は、過去最多に

2025年の訪日外国人数は年間で4,200万人（前年比15.8%）

（２）国内旅行消費額の増加

コロナ前の10年間はおおむね横ばい傾向だったが、コロナ禍での落ち込みを経て、2025年には26.8兆円（2019年比+4.9兆円）まで伸びている
（参考：RESAS クレジットカード消費額分析（2025年）　全国：6.6兆円　町田市：211億円）

2　町田市の観光に関するアンケート調査（Web調査）　2026年7月実施

（１）事前調査

東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県、栃木県、群馬県、山梨県、静岡県在住の15歳以上　計5,139人

① 町田市に対してのイメージは、約4割が「特にイメージがない」

② 町田市について「知っている」観光スポット、イベントなど（複数回答）

南町田グランベリーパーク 24.0%、町田駅前の繁華街 16.7% が上位
町田リス園 14.4%、ＦＣ町田ゼルビア 13.5%、薬師池 7.7%が続く
→自然・文化施設やイベント等は、南町田や町田駅前と比較すると低い結果に

（２）本調査

事前調査で「3年以内に町田市に行ったことがある」と回答した関東在住の15歳以上　計550人

① 町田市について「行ったことがある」観光スポット、イベントなど（複数回答）

調査１と同様、南町田グランベリーパーク 49.6%、町田駅前の繁華街 44% が上位
町田リス園 20.9%、薬師池 19.1% が続く
→来訪目的：ショッピング 62.7%、飲食 45.3% が上位を占める
→滞在時間：日帰り（半日未満） 56.0%

② 町田市のアクティビティや体験プログラムについて（複数回答）

「そもそも町田市で何ができるかを知らない」という声が 37.1%

③ 観光やお出かけに関して「足りない」と思うもの（複数回答）

15～24歳代の約2割が「情報発信」と回答

3　町田市の観光スポットに関するアンケート（子ども向け）　2026年8月実施

町田市内の子どもセンター5館を利用する高校生以下　総回答数　1,204票
選択肢：西園、町田リス園、薬師池公園、小野路宿里山交流館、南町田グランベリーパーク、鶴川香山園
設　問：すきな場所（認知度、愛着）／行ってみたい場所（今後の来訪意欲）

（１）「すきな場所」は、南町田グランベリーパーク、町田リス園が上位に

南町田グランベリーパーク 172票、町田リス園 142票

（２）「行ってみたい場所」は、西園、鶴川香山園が上位に

「すき」の回答数が少ないスポットは、「行ってみたい」の数値が高くなる傾向
子どもセンターごとにみると、地元のスポットに対して高い数値が出ている場所もある

Ⅳ．観光まちづくりの課題と方向性

＜各調査結果から見える現状＞

これまでの成果

- 観光入込客数は目標値を達成（2024年：615万人（前年比+5万人）うち外国人19万人）
- 市内の宿泊者数は直近10年で最大（506,463人泊（前年比+4.5%））
  また、客室稼働率は8割を超え、都外からの利用が8割
- 季節の見所や地域資源を活用したイベント・ツアーを実施し、参加者から好評を得た

観光をとりまく環境の変化

- 訪日外国人の増加
- 2027年国際園芸博覧会の開催及び大規模テーマパークの開業等による近隣自治体への来訪者の増加
- 生成AIをはじめとする先端技術の普及

町田市の観光をとりまくキーワード

- ＦＣ町田ゼルビアなどのホームタウンチームの活躍
- ショッピング・飲食店・グルメ　⇔　自然豊か（「おくまち」や里山、フットパス）
- 渋谷、新宿、横浜や箱根などへのアクセスがよい　　など…

今後の課題

- 町田市は、ショッピングや飲食のイメージが強い一方で、「町田のイメージがない」という声も数多くある
- 「町田でできること」や観光情報が伝わっておらず、観光のイメージが定着していない
- 町田市を来訪する人は一定数いるが、日帰りの短時間滞在の方が大半を占めている
- 宿泊者のうち、観光での利用は4割弱に留まっている
- 調査では、市を代表する観光スポットである四季彩の杜（薬師池、町田リス園等）や代表的なイベントの認知度・訪問経験は、南町田や町田駅前と比較すると低い
- 調査では、特に若年層から「情報発信が足りないのでは」という意見があがった
- 訪日外国人の数は過去最多を記録しているが、町田市を訪れている外国人は多くない
  花やみどりなどの見所があること、自然豊かであること、買い物・飲食が楽しめ、人が集まる場所（新宿や渋谷、横浜など）との交通の利便性があることなどの町田市の良さを活かしきれていない

＜課題から見える今後の方向性＞

- イベントの継続に加えて＋αの取組や工夫が必要
- 情報発信の手法の見直しや検討が必要

＜目指すべき将来像＞

- 誰かに紹介・おすすめしたくなるような場所に
- 市民にとって愛着のある場所に
- 交流が生まれる場所に
- これまで町田市を訪れる機会のなかった人にも訪れてもらえるように
- 何度も訪れたくなるような魅力ある場所に

Ⅴ．リーディングプロジェクト2027の目標

新たな取組、追加した項目など

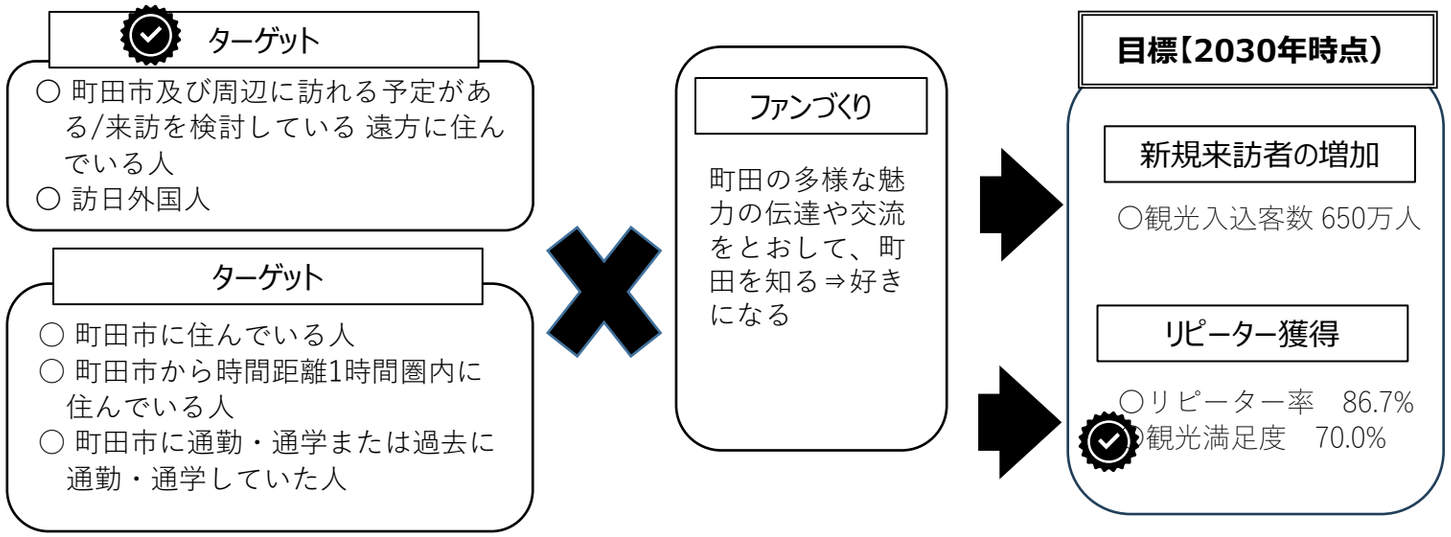
観光まちづくりの課題や、環境の変化、目指すべき将来像などをもとに、 2027～2030年度のコンセプトを次の2つとし、成果目標値に向けて観光施策を展開します。
また、ターゲットを2つ設定し、施策に取り組みます。

国内外からの来訪の促進　⇐マイクロツーリズムの推進（2022）

・ 国外を含む遠方に住む人をターゲットに、町田を知ってもらい、目的地として選んでもらえるように。
・ 市内在住もしくは近隣に住んでいる人をターゲットに、町田の魅力を再発見し、繰り返し訪れてもらえるように。

町田のファンづくり

・ 町田の多様な魅力を様々な手法で伝えることで、市内在住者は愛着が湧き、市外の人は興味・関心が湧き、いつも町田のことが気になる“ファン”を作る。



Ⅵ．リーディングプロジェクト2027の取り組み内容

基本施策１　町田ならではの地域素材の洗い出し･磨き上げ

≪現在地≫

・観光に関する調査で、認知度や訪問経験の上位には「町田駅周辺の繁華街」や「南町田グランベリーパーク」が挙がりました。また、市を代表する観光スポットである四季彩の杜（薬師池、町田リス園等）や代表的なイベントの認知度や訪問経験は、南町田や町田駅前と比較すると低い結果となりました。

・その一方で、四季彩の杜の来園者数は目標を達成し、また、イベント参加者向けアンケートの満足度は高い数値を示すなど、これまでの取組について一定の成果も見られました。

≪方向性≫

町田の魅力である花やみどりなどの自然や「まちなか」「おくまち」をはじめとする町田ならではの地域資源を活用し、磨き上げを行います。また、イベント等の実施をとおして、多くの人に町田市を訪れてもらえるようになることを目指します。

（１）地域資源を活用した事業の展開

市民にとっては「お気に入りのスポット」に、遠方に住む人にとっては「訪れたくなる場所」になれるように、町田ならではの地域資源を活用した事業を展開し、町田の魅力を伝えていきます。

〇花やみどりを活用したイベントの実施

〇町田駅前、四季彩の杜、鶴川、相原など、市内各エリアの魅力を活用した事業の実施

〇フットパス振興

〇「まちなか」と「おくまち」の魅力発信

◎ナイトタイムエコノミーの取組の検討、推進

基本施策２　観光まちづくりの担い手と態勢づくり

≪現在地≫

・観光案内人による市内をめぐるツアーの開催や、地域・市民団体等との連携・活動支援を行うなど、担い手・態勢づくりに取り組み、それぞれの担い手が開催するツアーや催し等は好評を得ています。

・町田市のホームタウンチームであるＦＣ町田ゼルビアが活躍を続けており、試合観戦のために全国のサポーターが町田市を訪れるようになりました。また、2027年3月から横浜市で国際園芸博覧会が開催、さらに会場跡地には大規模テーマパークが開発予定となっており、これまで以上に近隣及び市内に国内外問わず多くの人の来訪があることが予想されています。

来訪者が増加する一方で、観光に関する調査では「市でどんな体験ができるのか知らない」という声が多数見られました。

≪方向性≫

観光案内人によるツアーや、地域や事業者等と連携したイベント・体験プログラムの検討を進め、広く周知していきます。

また、国内外問わず、遠方から初めて町田市を来訪する人にもわかりやすく、かつ市の魅力が伝わり、より長時間町田を楽しんでいただけるように、観光案内等の体制を検討していきます。

（１）市内をめぐるツアーや体験プログラム等の実施･充実

町田で楽しめることを具体的に提案し、より長時間滞在していただけるように、観光案内人によるツアーや地域と連携した市内でできる体験等の発掘・発信に取り組みます。

〇観光案内人によるツアーの実施

〇町田で体験できることの整理

◎町田で体験できることやモデルコースの発信

（２）観光案内等受入れ体制の見直しと検討

町田の情報を簡単かつわかりやすく入手できるように、観光案内の体制を見直し、強化に向けて検討します。

また、2027年国際園芸博覧会に向けた取組や実績、課題をもとに、2030年度以降を見据えた観光案内のあり方を検討します。

〇観光情報の集約

〇観光案内体制の見直しと強化に向けた検討

◎訪日外国人受入れ態勢の検討

基本施策３　地域素材が持つ魅力の伝達と交流の拡大

≪現在地≫

・コロナ禍以降、アニメやスポーツなどのコンテンツとデジタル技術を活用したシティセールスを行ってきました。また、SNSやWebメディアを活用し、イベントや観光情報について発信してきましたが、観光に関する調査では、特に若年層から「情報発信が足りないのでは」という意見が挙がっています。

　市や観光コンベンション協会による情報発信だけではなく、地域の人や町田を好きになってくれた様々な人と連携し、幅広く魅力を伝えていく必要があります。

≪方向性≫

今後も継続的に情報発信を行っていくとともに、より効果的な情報発信の手法を検討し、交流の拡大を図ります。

（１）効果的な情報発信の検討･実施

地域の人や、町田の魅力を知る「町田のファン」の人と連携し、情報発信の役割を担ってもらえるような制度の導入を検討します。

◎観光大使制度等の新たな情報発信方法導入の検討

〇SNS等を活用したコミュニティの造成

（２）多様なターゲット層に向けたシティセールスの推進

町田の魅力をより多くの人に認識してもらえるように、町田ならではのコンテンツを活用したシティセールスや広域的なプロモーションを展開します。

◎国内外に向けたシティセールスの実施

〇アニメやスポーツなどの町田ならではのコンテンツを活用したシティセールスの実施